

研究課題番号	S2-10-1
研究課題名	海底プラスチックごみの実態把握及び回収効率の推定に係る手法・技術の開発
研究実施期間	令和5年度～令和7年度
研究機関名	東京海洋大学
研究代表者名	東海 正

1. 評価結果

評価ランク：A

2. 委員の指摘及び提言概要

漁業による海底プラスチックの回収率を明らかにし、分布量を推定することと、海底カメラや映像データを AI で解析する技術の確立に取り込んでいることを高く評価する。底引き網の様式による海底ごみの回収に対する効率の大きな違いが明らかになったことは、今後の環境復元の施策に重要な示唆を与えるものと考えられる。水中カメラの映像から深海の海底プラスチックごみを検出する AI の開発も進み、データの拡充や効果的な処理方法の導入により精度の向上が図られるなど、研究は順調に進捗している。今後、プラごみの物性や形態・形状に起因する海流による移動・拡散・沈降・集積などとの関連についても知見・データが集まり、海底プラスチックごみの実態把握が容易になることを期待したい。また、国際社会への情報発信や国際誌への発表に期待する。